西高殿若葉幼稚園 令和６年度 自己評価

１．本園の教育方針・教育目標

【教育方針】

人や生きものを慈しむ心、旺盛な好奇心、物事に取り組む意欲、最後まであきらめない粘り強い心。

集団の中での遊びや保育、またその延長線上にある行事などを通じ、子どもと保育者が日々過ごし、体験してゆく中で、人とのかかわり合いやルールを学びながら、子ども自らが育とうとする力を、感じ合い、喜び合いながら、心身ともに健やかな幼児期を過ごせるよう保育を行う。

【教育目標】

〇健康でのびのびと活動する子ども
〇「きれい」「ふしぎ」「四季」を感じ取ることのできる感性豊かな子ども
〇物事に一生けんめい取り組み、あきらめない心を持つ子ども
〇人の気持ちが理解できる、やさしい子ども
〇ルールを守り、仲よく遊べる子ども
に育ってゆけるよう、教職員一丸となって保育にあたる。

２．本年度、重点的に取り組む目標及び計画

・教育・保育のあり方について考える

・保育の質向上

・子育て支援の充実

評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組みの状況
教育・保育のあり方	これからの教育・保育に求められるものとして、少子化社会において子ども一人ひとりの可能性を伸ばすために、教育と保育は「持続可能で柔軟な仕組み」へと進化していく必要がある。予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮できることが重要となる。これらのことを踏まえたうえで、日々の教育・保育にフィードバックしていけるよう、地域に根ざした質の高い保育、多様な子どもと家庭への支援、保育者の専門性の強化を行い、保育の質の向上につなげることができた。
保育の質向上	安全で安心できる環境整備のため、事故のリスクを減らす環境づくり、動線の確保や見守りしやすい配置を行うことで、子どもが自由に落ち着いた活動を行うことができた。職員の専門性の向上については、引き続き積極的な研修参加など、学びの機会を確保し、同僚との振り返り、職員間での情報共有を行うことで子どもの姿を的確に的確にとらえることができ安定した保育を行うことができた。また、良質な保育を行うために必要な職場環境においては職員の働きやすさの改善のため、行事の見直し、主幹教諭が中心となり、業務の効率化、職員間のサポート体制の整備を図ることで保育者一人ひとりの心に余裕が生まれ、いっそう子どもに寄り添った保育が行えた。
子育て支援の充実	子育て支援の充実においては、家庭との連携が必須となり、連絡帳、個別の電話連絡、相談などで日々子どもの状態や状況を相互間で共有し、子どもの置かれている環境や状況を把握し、保護者の思いや家庭環境を理解することで、子どもにとって安心した環境づくりに貢献することができた。また、保護者が相談しやすい雰囲気づくりを行うため、個別の空間で対面で話し合うことを心がけた。なお、保護者の悩み、育児についての悩みについては、保護者自身の心を解放できるよう、園のスクールカウンセラーにつなげるよう努めた。 地域子育て支援の充実として園庭開放を行っているが、今年度は平日開催を実施しすることで、より参加しやすいかたちとした。また、地域の子育て中の保護者にも臨床心理士のサポートが行える体制を整えた。

３．学校評価の目標・計画の総合的な評価

より良い保育を行うためには、子どもが安心して過ごせる環境、それを支える職員（保育者）が働きやすく学び続けられる環境の両輪が必要となる。職員一人ひとりが、園の教育理念、方針を理解し、これからの教育・保育を見据えながら、保育の質の向上、子育て支援の充実を図ることで、子どもの育ちの保証、保護者に対する子どもの育ちへの理解と安心感、子育ての充実感と大切さを知ってもうことができた。

４．今後取り組むべき課題と充実すべき課題

【幼児の生活にふさわしい園内環境づくり】

常に自然に親しみを感じ、生命の尊さや不思議さに気づくことができるよう、園庭に樹木や草花を配置し、日々、興味、関心をもったことについて保育者に尋ねたり、友だち同士で調べたり、自分で考えながら行動できる環境づくりを行う。また、子どもたちの育ちを支え、身体機能を向上させる大型遊具や科学的な思考を育む砂場など、遊びながら学べる環境を充実させ、日々、質の高い遊びと日常の点検により安全確保の徹底を行う。保育室の整理整頓を心がけ、生活しやすく、子どものイマジネーションを高めることのできる雰囲気づくりや、月ごとに変わる壁面制作、環境構成など、子どもたちが日常的に興味を持てるようにする。また、遊びのためのコーナーとしてピロティ—の絵本コーナ—の充実、小動物を飼育する場所を整備し、年齢に関係なく観察でき、ふれ合えるスペースを設ける。

【教員の資質向上と保育の質向上】

園の理念、目標を共有し、それに基づき日々の保育内容を学年ごとに計画を行い、学年ごと、また全体に及びコミュニケーションを取りながらカリキュラムの設定や行事の打合せを行う。現在の教育要領のキーワードである「幼児期の終わりまでに育って欲しい 10 の姿」を捉え、日々の保育や活動の 10 の姿の関連性を理解し、子どもの育ちにどのようにつながっていくのかを意識しながら保育にあたる。また、教育・保育の雄質向上のため、積極的な研修参加により、知識はもちろんのこと、子どもの心もち、保護者理解をよりいっそう深めていく。そのために、各担任からのレポート提出により、学びへの振り返り、また、職員間での情報共有を行い、職員全体における専門性の向上と、園全体の教育・保育に対する意識の向上へとつなげる。

【保護者理解と保護者の子ども理解】

子どもの成長を支えていくためには、保護者と保育者双方の信頼関係が絶対条件であるため、日々、家庭との連携を密に行い、園と保護者が手を携えながら協力し合い、子育てを行う。毎月の園だより、クラスだより、また、懇談会を設ける他、自園のホームページにでの教員ブログ、SNS での日々の情報発信をより一層高めていく。その中で、日々の子どもの活動の様子はもちろん、子どもへの思い、保育者自身の思い、また、保育観などを綴りながら日々発信を行う。今後、更に有効な情報発信への手段を考え、保育者、保護者が共に子どもの育ちを見守っていけるよう心がけながら発信を行っていく。

６．学校関係者の評価

令和 6 年度においても教職員が一丸となって、子どもの育ちを一番に考えた保育を行っておられました。また、職員の方々は積極的に研修に参加され、現在の頬育に必要なこと、また、先を見据えた保育のあり方など、深い学びをされていることは子ども、保護者への関りにも大きく影響するものと思われます。また、職員同士のコミュニケーションもしっかり行われていることから園全体のチームうワークの向上にもつながり、先生同士の雰囲気の良さは間接的にも子どもたちに影響していくものと考えます。今後もさらに研鑽を重ねながら、幼稚園が子どもと保護者にとって、より大きな学びと育ちの場となるよう期待します。

７．財務状況

公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。